

ひなたぼっし通信

2016年
10月号

ケアハウスから

「目と耳と体で感じました！」

ケアハウスでは19日に、敬老の日にお祝いをしました。前半はなつかしい歌の時間。ギターと共に口づさみ、ホールにこだました声に秋を感じました。後半はマジックショー！こりゃびっくりで、釘付けになりました。帽子からは、ハトならぬ花が何本も何本も出るわ出るわ！利用者さまが手を伸ばして花をもらっては「きれいな」「すごいね」と声をあげています。

たくさんマジックに体全体で引き込まれていました。ケアハウスの誇るMr.エックスの腕前もアップしている様子(笑)。次回のショーも楽しみにしていますね。おやつには鶴亀をあしらったおまんじゅうでお腹も満たされました。皆様、これからも元気に楽しく一緒にすごしていきますように。

ケアハウス おまつり 10/8(土) 十時〜

炭坑節・ミニ御柱・ヨーヨー釣り・リサイクルバザー

宅幼老所・Gホーム おまつり 10/22(土) 十時

利用者様と地域のみなさんのお祭り・フリマ開催



宅幼老所から

「敬老会ボランティア」

今年の敬老の日は9月19日でしたね。

宅幼老所には敬老会ボランティアとして、「ナインビーンズ」という名前で活動されているグループの皆さまがいらしてくださいました。岡谷、諏訪、茅野、富士見にお住まいの方たちで、みなさまはシニア大学で知り合い、みんなで何かやってみよう！との思いで結成されたそうです。



手話を交えて、「幸せなら手を叩こう」などの歌を歌ってくださったり、手作りの和太鼓で演奏をしてくださったりしてくれました。

手作り和太鼓の作り方は、ゴミ箱の中に石などの重りを入れ、その上にラップをぐるぐるに巻いた洗面器を置いて作ったもので実際に叩いてみた利用者様は「こんなに良い音が出るんだなあ！」と感動されていました。

最後には朝ドラでお馴染みの、AKB48が歌った365日の紙飛行機”の歌に合わせてたくさん紙飛行機が飛ばされ、開くとその1つ1つに心のこもったメッセージが書かれていました。終始みなさま笑顔で、「また来てねー！」と、とても喜ばれていました。

「秋の大運動会」

9月の3日間に渡り、宅幼老所では秋のひなたぼっこ大運動会を開催いたしました。万国旗を飾りつけ、雰囲気は本当の運動会さながらです。

種目は玉入れ、大玉送り、小玉送り、棒倒し、長さ比べの5つで、2つのチームに分かれてチーム対抗戦としました。

大玉送りでは、ボールを隣の方へ手渡しする予定をみなさまが転がしてしまうといったハプニングもありましたが、利用者様同士わからないところを教えあったりして、協力されている姿がとても印象的でした。

長さ比べでは、お一人お一人が引く張ったひもの長さの合計を競う中で、それぞれのチームのひもの長さが追い越し、追い越され、みなさまの歓声が一番大きく盛り上がったように思います。

勝ったチームは万歳三唱、負けたチームは、「負けるが勝ちだよ！ばんざーい！」と言ってみさなまを笑わせていました。

秋の雨

長く続いて 晴れ嬉し

長き夜は

菊の香供に 瞳閉じ

この2つの句は台風の影響で雨が続いた中で、ある利用者様が思いつかれた句です。宅幼老所では、秋にちなんだ俳句をみなさまで考えては披露していただき、季節を感じさせていただいています。



グループホームから「富士見中の文化祭1F」

富士見中学校の文化祭に行き合唱部の歌を聞いてきました。学校へ着くと先生と生徒の方が迎えてくれました。会場へ向かって行くと歌声が聴こえてきます。「始まっているね、急がなきゃ」と階段をゆっくり登って行きました。合唱部の歌を聴くと「私たちが歌ったなー。声もきれいで揃っていて素晴らしい。階段の疲れがとれた」などと言われていました。手拍子したりいっしょに歌う歌もあって生徒の方と一緒に楽しむ事が出来ました。帰る時には「すごくきれいだった、がんばってね、又聴きに来るからね」と生徒の方に声を掛けられていました。又楽しみな事を一つ増やす事が出来ました。次は敬老の日です。グループホーム1階では、花と手作りゼリーを用意して、2階の方も招待して一緒にお祝いをさせて頂きました。2Fの方とワイワイしながらゼリーを「おいしいね」と言ってお召し上がって下さいました。これからも元気で過ごして下さいね。

「ジエンガ 2F」
2階ではレクリエーションに「ジエンガ」を取り入れました。同じ大きさの木のパーツを組んで作ったタワーを崩さないように注意しながら、片手でパーツを抜き取って最上段に積み上げる動作を交代で



行う、ハラハラドキドキ感を世代を問わず楽しめるバランスゲームです。テーブルを囲み、このゲームを4〜5名様くらいで楽しめます。職員もいっしょのときもあります。タワーからパーツが抜き取れたとき、残念！崩れてしまったときなど、喜ばれたり驚かれたりとそれぞれに歓声があがります。

生活相談会

(SOS相談会)

十一月より開催

私たち社会福祉法人ひなたぼっこは、社会福祉法にもつ

き、地域で困っている人の支援をしていくことが本業だと理解しています。子供さんから高齢者まで生活をしていく上で、さまざまなお悩みやお困りごとがあるかと思えます。行政で対応できないこと、だれにも相談できないようなことなどへ、さまざまな専門家の力もお借りして対応して参ります。お気軽にお出かけください。



編集後記「自ら話す博物館」

「はんの時には、なるべくいろんな利用者の方と一緒に食べるようにしています。」若いころは何をしていらしたのですか。「何となく、」マンテツに勤めてたんだよ。「と話してくださいる方がいました。今の中国東北部を日本が占領していたころ満州と呼んでいました。マンテツとはその満州の鉄道のことです。当時としては内地(日本のこと)の鉄道をしのぐ水準だったそうです。徴兵されて満州に行き、現地除隊を願い出て、満鉄に勤めたのだそうです。主要な役職は日本人が占め、現地の中国人は下働きだったそうです。

彼は20代の若さで駅長になったといえます。エリートですね。そうこうしているうちに敗戦。日本に引き揚げてくると、もう鉄道の仕事はなく、やむなく開拓農家になった彼は、「みんな木を切り倒して、畑を作った」「縦穴をほって、柱を立てて・・・まるで縄文人みたいな暮らしだった・・・」
「土地が痩せてて作物が実らないから、釜無川の堤防工事で稼いで・・・」と、波乱の人生を語ってくださいます。そう、歴史博物館のような方です。ひなたぼっこには、自ら話す多くの博物館がおります。

ひなたぼっこ通信

バックナンバーを

ご覧になりたい方は、社会福祉法人ひなたぼっこのホームページをご覧ください。

毎月第一水曜日です。十一月二日(水)、十二月七日(水)、一月十一日(水)いずれも午後二時から三時三十分です。

発行 社会福祉法人ひなたぼっこ

理事長 森 正明

〒399-0211

富士見町富士見1-650-1

TEL 0266-61-2335

FAX 0266-61-2336